

# 平成30年度 事業報告書

社会福祉法人 落穂会

## 1 評議員会・理事会の開催及び監事監査実施について

30年 4月 第1回理事会の開催及び審議事項 あさひが丘学園会議室

\*新規事業所立ち上げに伴う土地・建物取得について

\*多機能事業所こどもサポートセンターゆうひが丘の開設について

\*こどもサポートセンターゆうひが丘改修工事について

\*経理規程の変更について

\*平成30年度各拠点区分の補正予算について

30年 5月 監事監査 あさひが丘学園会議室

\*監事二人による平成29年度の本部並びに施設の運営状況及び会計経理についての監査実施

30年 5月 第2回理事会の開催及び審議事項 あさひが丘学園会議室

\*法人本部及び各施設の事業報告について

\*平成29年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について

\*旭福祉センター入所棟新築工事に伴う、設計業者の選定について

\*旭福祉センター入所棟新築工事に伴う、境界確定・里道用途廃止申請等の業者選定について

\*給与規程の変更について

\*あさひが丘学園 臨時賞与について

\*落穂会グループホーム丘造成工事に伴う指名競争入札及び入札日時、指名業者の選考について

\*こどもサポートセンターゆうひが丘改修工事 落札業者との契約について

\*平成30年度補正予算について

\*定時評議員会の招集について

30年 6月 第1回評議員会及び第3回理事会の開催及び審議事項

パレスイン鹿児島会議室

評議員会

- \* 平成29年度法人本部及び各施設の事業報告について
- \* 平成29年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について
- \* 定款変更について

理事会

- \* 新規事業所予定地の土地取得について
- \* 障害者支援施設あさひが丘 補正予算について

30年 7月 第4回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \* グループホームあさひが丘新築工事の実施及び資金の借入について
- \* グループホームあさひが丘新築工事に伴う一般競争入札の公告事項について
- \* 新規グループホーム造成工事落札業者との契約について
- \* 補正予算について

30年 9月 第5回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \* グループホームあさひが丘新築工事落札業者との契約について
- \* 旭福祉センター入所棟新築工事に伴う、土地購入について
- \* 補正予算について
- \* 各事業所の運営規程の変更について
- \* 旅費規程の改訂について

30年12月 第6回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \* 社会福祉法人 落穂会 中間決算報告について
- \* 各拠点区分の補正予算について
- \* 職員自家用自動車通勤管理規程について

31年 3月 第7回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \* 平成30年度各サービス区分の補正予算について
- \* 各事業所の運営規程の変更について
- \* 平成31年度法人本部・各施設の事業計画並びに各拠点区分の当初予算について
- \* 就業規則の変更について
- \* パートタイマー就業規則の変更について

- \*給与規程の変更について
- \*平成31年度賞与支給月数について
- \*経理規程の変更について
- \*育児・介護休業等に関する規程の変更について
- \*施設長の定年延長について
- \*グループホーム・ホームヘルプサービス管理者の採用について
- \*グループホーム落穂会新築工事に伴う、設計業者の選定について
- \*契約職員就業規則の一部改正について

# 平成30年度事業報告

障害児入所施設あさひが丘学園  
障害者支援施設あさひが丘  
地域生活支援センターあさひが丘  
ガーデンキッズセルク・トリア  
あさひが丘乗馬俱楽部シュバル  
こどもサポートセンターゆうひが丘

最重点目標ならびに重点目標については、各目標の達成度について評価する。

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

## ■平成30年度重点テーマ

- ① 社会福祉法人落穂会職員必携書「共生と共創」をしっかりと読み込み、それに基づいた支援を行います。
- ② 利用者が暮らす地域社会との関係をより一層深めます。

平成30年度は上記2つを重点テーマと掲げ、さらに下記の最重点目標、重点目標に落とし込み各事業を展開することとした。

## 1. 平成30年度の最重点目標に対する報告

### 【最重点目標】

#### (1) 職員必携の活用

【評価：B】

年度前半では、職員必携を「活用」している状態とはどういう状態なのかを各職員が十分に理解しきれていなかった。そこで、年度後半には、各項目に対して自分自身が職場で実際に取り組んでいることを職員朝礼やチーム会議で発表する機会を設けた。発表の場で、成果（うまくいったこと）だけではなく、失敗談（うまくいかなかつたこと）が発信されることで、表面的な理解に留まらずに、自職場での実践のイメージをつかむことにつなげることができた。

次年度は、上記のような「職員必携の具体的な行動化」を「より多くの職員」が、「より日常的に」行うことを目指す。

## (2) 地域貢献活動

【評価：A】

### ① 地域住民としての関係づくりと協力

「継続的な地域交流」「交流機会の開拓」「地域課題の解決」のに取り組んだ。

継続的な地域交流の柱として、第5回秋まつりを開催し、1300名を超える過去最高の入場者数を実現した。また、ワークショップも3回開催し、地域住民が施設へ足を運んで頂く機会を定期的に作ることができた。

また、新たな交流機会としては、復興を目指す地域の棒踊り保存会への練習参加や出演を行った。

地域課題の解決事例としては、カラスからの被害を防ぐためのゴミステーション設置や体育館の貸し出しなどが挙げられる。

さらには、地域の班会の会場としてグループホームを貸し出すことで、会場手配に困っていた地域住民のニーズに応えながら、集まった方々に利用者の顔を覚えてもらう貴重な機会をつくることができた。

### ② 社会生活を営むことに困難を抱えている人たちへの支援

NPO2団体への延べ97日間の出向の中で、直接的な現場での支援を行った。

NPO法人ホームレス生活者支えあう会では、関係機関と連携して、炊き出しに42回参加する等、ホームレス生活者の日常的な支援を継続的に行なった。

NPO法人やどかりサポート鹿児島では、住宅確保配慮者の中でも、特に確保が難しいとされている高齢者や障害者に対して支援を行っている。具体的には、地域包括支援センター・地域定着支援センター・福祉事業所等と連携し、入居後の支援体制を構築することや、やどかりサポート鹿児島が連帯保証人となり、住宅確保の支援を行った。

また、社会福祉法人の連携による複合的な課題解決を目指す「かごしまおもいやりネットワーク事業」にも参画し、手始めに生活困窮者への物資支援を行った。

## (3) 上質で快適な生活

【評価：A】

### ① 生活環境について

施設入所支援部門では、利用者個人の部屋に対して、「機能的」な住環境の整備はもちろんだが、加えて「家庭らしさ」も追及した。具体的には、好みの音楽をかける、くつろぎやすいクッションを用意するなどに加えて、各々の利用者に合わせてアロマオイルを導入した。安眠や情緒コントロールにも一定の効果があったと捉えている。

グループホームでは、利用者の希望に応じた生活を送る為にヘルパーステーションとわと連携し、余暇外出や医療機関通院を行った。

### ② 食事について

児童部では、毎食ユニットでご飯を炊き、温かい食事の提供をおこなった。また、定期的に食材を購入し、料理を作る経験も積むことができた。

成人部では、食事場面を見たＳＴからの助言をチーム間で共有し、支援へ反映できるように写真などを活用して分かりやすい記載にした。また個々の利用者に応じた食事支援及び食具の工夫も順次おこなっている。

グループホームでは、利用者の好みを考慮し、季節感のある食事、適温、適量での食事提供を行った。

### ③ 衣類について

施設入所部門共通して、個々のニーズに応じた衣類の着用、ＴＰＯにあった衣類着用ができるよう支援を行った。

児童部は衣類購入の際に、個別外出を利用し子ども達が衣類を見て選ぶ機会を提供できた。

成人部では素材、衣類の肌触りへの配慮が必要な方への対応も行った。

グループホームでは、季節にあった衣類選びや、清潔な衣類を身に着けられるよう支援を行った。また、清潔感を意識した衣類選びなどのアドバイスを行った。

## 2. 平成30年度の重点目標に対する報告

### 【重点目標】

#### (1) 組織間連携の充実を図る

【評価：B】

##### ① チーム内外・部署連携、職務遂行上の留意点

チーム内連携においては、各コミュニケーションツール（デスクネット・チーム連絡帳）を活用すること、情報共有のルールを設定することで、連携を図り業務を進める事が出来ていた。一方、チーム間、部門間、事業所間の連携においては、タイムリーで正確な情報共有に課題が残る。事業拡大に伴い、デスクネット上での情報共有量が増え、「伝えたい情報」を「伝えたい人」に「過不足なく」伝えることが難しくなっている。

また、職員必携の「職務遂行上の留意点」については、新規職員も増え、「ホウレンソウカク」や「挨拶」など法人の強みでもあった「アタリマエ」が薄れている側面も垣間見える。職員の意識の統一を図る為の取り組み（例えば、実際の現場で活かせる具体的行動を身に付けるための実践研修等）の検討も必要と思われる。

### ② 会議の質の向上

会議議案の事前配信や意見の事前集約をする事で、会議での活発な意見交換が図れた。また、地域センターチーフ会議では、人材育成の取り組みについて議論し、各部門間で、人材育成のポイントや実際の育成体験を共有することが定着してきている。一方、会議での発言者の偏りや議案のマンネリ化も見られている。会議時間の短縮について、議案の工夫や時間配分に取り組むことで、会議時間の短縮は図れてきている。短縮された時間の中で更に会議の質を高めるための工夫は今後も必要である。

### ③ 決定事項の共有と確実な実行

会議録の回覧については定着しているが、会議録配信期限（会議後1週間以内）が厳守されていない為、引き続き課題として取り組む必要がある。

決定事項の確実な実行については、担当者と責任者の相互で進捗状況の確認ができておらず、次回会議まで持ち越す事があった。確実な実行に繋げるために、相互で実行スケジュールを立て進捗状況を確認する必要がある。

## (2) 人材育成の充実を図る

【評価：B】

### ① 自ら考え行動できる職員の育成

各チームで、自チームの重点目標を考え、取り組み、年間の振り返りのプロセスを体験することで「自ら考える」ことにチャレンジする風土のきっかけはつくることができた。さらなるステップアップとして「考える風土の定着」を目指しながら「行動（チャレンジ）が賞賛される風土づくり」へと取り組みを昇華させていきたい。

### ② 新規職員の育成と定着支援

チューター制度は組織的にも定着し、個別支援計画のペアワークなど、新卒職員が職場に順応することに寄与していた。ただし、チューター自身への教育・支援はやや形骸化しているところもあったため、今後見直しが必要である。

また、中途採用職員の定着を目的として、新しい取り組みとなる中途採用職員研修を行った。「おかれている現状とキャリアビジョンの整理」「中途職員間のネットワークづくり」には一定の成果があった。今後は、単発の取り組みとならないように「育成・定着支援体制の体系化」に取り組んでいきたい。

### ③ 事業所案内会の実施について

「中堅職員の自事業理解」と「参加者の他事業理解」には成果があった。特に事業所紹介者は利用契約者数や他法人と比較した際の優位性など日々の業務遂行だけでは意識しないところを整理する機会となっていた。

一方、事業所数が増え、参加者選定や紹介時間の設定において従来のやり方では無理がきている側面もあるため、改めて本取り組みの目的を再定義する必要がある。

#### ④ 自主的な勉強会について

事例検討会議・DVD視聴会の定期的な開催は実行できたが、限られたメンバーが参加する形になっていた。「組織側から提供する」自主性勉強会という段階を越えて、本来目指していた「自主性」をより前面に出し、各チームや小集団での勉強会が開催されることを推奨していく段階へとシフトしていきたい。

### (3) 職場環境の充実を図る

【評価：A】

#### ① 提案ボックスの設置

職場環境の充実を図るために職員提案ボックスの設置を検討したが、具体的な設置を行うことができなかった。ただし、部署によっては、チーム会議の提案に、職場環境の充実の項目を設定し、都度意見を募り、一部は環境の充実に繋がった。

#### ② 年次有給休暇取得

職員1人あたりの年休取得日数は平均11.8日となり、目標の年10日以上を達成することができた。また、全職員が年1回以上の6連休もしくは4連休を2回以上取得した。

#### ③ 個別面談の実施

統括副施設長と副センター長が分担して全職員（正職員・非常勤職員）167名との年1回の個別面談を行い、各職員が抱えている課題や仕事への取り組み姿勢等についての聞き取りを行った。業務内容に限らず、身近な上司との何気ない会話を望む傾向もあり、職員同士のコミュニケーションの円滑化が必要である。

### (4) リスクマネジメントへの取り組みを強化する

【評価：A】

#### ① 災害への備え

災害に備える「備蓄品準備」を行うと同時に、「実際に使用できるのか」という観点を意識した。

「準備」の観点では、これまでの備蓄品に加え、災害用のトイレ準備(2000回分)、発電機の予備燃料を手配した。今後は、ガーデンキッズトリア内の避難器具設置等、保有施設以外のリスクマネジメントも必要である。

また、実際の災害時を想定し、職員での炊き出し・試食会、総合防災訓練時（年2

回)に備蓄品の使用を行った。実際に使用したことで、提供のしやすさ、食べやすさ、アレルギー対応食の必要性などが見えてきた。より災害時に「使える」ものを準備していきたい。

## ② 非常時連絡体制整備

ガーデンキッズセルクでは、マルヤガーデンズ主催の避難訓練へ職員が年2回参加し、緊急時の他店舗との連携、避難方法について共通理解を図っている。

あさひが丘学園・地域生活支援センターは、地域の避難対応時に中心的な役割を担えるよう関係者・関係団体を巻き込んでいく必要がある。

## ③ ヒヤリハットへの対応

ヒヤリハット報告について、リスクマネジメント委員会が毎月集計・種類毎に整理し朝礼や各部署のチーム会議等で原因・対策を伝達した。ヒヤリハットへの意識が高まっている一方で、課題として、似たようなケースの再発が挙げられる。再発の原因は、「原因分析の甘さ」「対応策の実現可能性の低さ」など複数の原因が考えられるため、リスクマネジメント委員会が中心となり、再発防止策の精度を上げていきたい。

# (5) 地域社会に向けての取り組みの充実を図る

【評価：A】

## ① 公開療育・関係機関との連絡会

児童発達支援事業所や行政関係者向けに公開療育を下記のとおり実施した。

- ・児童発達支援センター歩路（12月13日（木）：参加者24名）
- ・放課後等デイサービスシュバル（12月1日（土）：参加者5名）
- ・ガーデンキッズセルク（10月30日（火）：参加者6名）
- ・ガーデンキッズトリア（10月25日（木）：参加者6名）

事業所説明・療育参観実施後、質疑応答の時間も設け、各事業所の取り組みについて相互に情報交換を行うことができた。

また、地域の幼稚園、保育園、学校、行政関係者、児童発達支援事業所に対しても下記の通り連絡会・研修会を実施した。

- ・幼保連絡会（7月5日（木）：参加者29名）
- ・学校連絡会（8月8日（水）：参加者8名）
- ・児童発達支援事業研修会（11月7日（水）：参加者28名）

併行通園児の情報交換や支援方法に関して学ぶ機会を設け、地域の療育の質の向上に寄与できた。

## ② ペアプロ・サポーター制度

ガーデンキッズの保護者を対象としたペアレント・プログラムをガーデンキッズセルクにて2回開催し、計16名の保護者が参加した。子育てについて学び合うなかで保護者間の繋がりもサポートする機会となった。

サポーター制度に関しては、ボランティアやワークショップ参加者、職場体験で来訪した学生（吉田南中、鶴丸高校）にもバッジを配布したが、一部漏れがあった。

今後は「本制度の目的」と「サポーターの定義」を再設定し、バッジを渡すだけにとどまらない、広報活動のひとつに展開できるような取り組みに変えていきたい。

## ③ ホームページ・インスタグラム

ホームページによるお知らせを年間59回公開し、社会福祉法人に求められる情報公開や施設の取り組み、行事のお知らせなど、タイムリーな更新を行うことができた。

また、SNS（インスタグラム）による発信も年間100件近い投稿を行い、ギャラリーや新作、バザー出店情報等を発信してきた。配信期間が空くこともあったが、概ね定期的に活用できた。フォロワーは180前後で頭打ちであり、広める為の方策には工夫の余地が多くある。

# （6）新事業の円滑な運営と新たな事業展開のための施設整備を行う 【評価：A】

## ① 新グループホーム開設

新たなグループホーム2棟は、開発許可の関係で、着工が遅れ、平成30年11月に着工となった。完成予定は令和元年5月であり、6月から利用者の障害者支援施設の入所者の移行予定となっている。これに伴い障害者支援施設の全室個室化は令和元年度にずれ込む見通しである。

## ② 新児童通所事業所開設

平成30年7月にこどもサポートセンターあさひが丘（児童発達10名、放課後等デイ10名）が開所。吉野地区の子ども達を対象に受け入れを行った。児童発達については、年度末にかけて利用率が100%に達成する月もあったが、放課後等デイサービスにおいては今年度利用率を満たすことはなかった。

## ③ 給水設備の工事

あさひが丘学園において、給水設備（井戸水）の整備のため、試掘調査を行い、水質検査を行ったところ、飲用に適する旨の検査結果を得た。令和元年5月を目途に、受水槽の設置を行い、一部の水道を井戸水に切り替える予定である。これにより、経

費削減と非常災害時の飲用水の確保が可能となる予定である。

④ 新たな作業棟の建設

新たな作業棟の建設については、今年度は実施できなかった。

(7) 利用者の権利擁護の取組を推進する

【評価：A】

① 成年後見制度

グループホーム利用者及びグループホーム移行予定のご家族向けに、後見制度の説明会を開催した。また、希望者については、司法書士と連携を図り、後見制度を利用できるよう支援を行った。入所利用者4名に後見人が選任され、またグループホーム移行予定者3名の後見人申立手続きの準備に入った。

② 人権侵害ゼロへの誓い

事業所毎に改善シートを作成し、改善目標を立てて改善に取り組んだ。チーム会議で支援状況の振り返りや人権標語を掲げて具体的な取り組みがみられる事業所もあり一定の成果があった。

今後は、組織体制の変化に合わせて虐待防止マネージャーの配置を行い、事業所の特徴を掴みながら権利擁護の取り組みを推進する。

③ 虐待対応

情報の共有が必要な利用者に対しては、児童相談所、市こども福祉課、保健センター、保育所等と情報の共有を図った。児童入所施設では、児童相談所からの要請により虐待による一時保護児童の受け入れを3名行った。

児童発達支援センター歩路では、登園時に痣や怪我が継続的に確認された児童に対して、児童相談所に連絡し緊急一時保護となるケースが1件あった。

### 3. 通常の事業内容に対する報告

#### 【障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘】

(1) 個別支援計画について

利用者の年齢に応じたより良い個別支援計画作成を行う為に「成人期における個別支援計画書作成に関する講義及び演習」と題して10月に外部講師によるテーマ別研修を実施した。利用者本人がどのように生活するかをイメージし易い目標の設定を心掛けた。実践場面ではサービス管理責任者とケース担当者が話し合い支援計

画に基づいたスケジュールの提示や、絵カードの活用を行い利用者の理解度に応じた支援を行った。

## (2) 日常生活支援

児童部では、小規模ユニットケア開始後、生活環境が変わったことで家庭的な雰囲気の中で日常生活支援を行えるようになった。健康管理においても、細やかな対応が行えるようになった。また、児童部での自治会を2カ月に1回実施。その中で子ども達が自身の役割（お手伝い等）を決め、日常生活に取り組むようになってきている。

成人部では、利用者が生活スペースで安心して過ごせるように支援員の動線見直しをおこない配置職員を工夫した。結果、利用者の生活スペースでゆったりとした個別の関わりを行える時間が増えた。また、事故を未然に防ぐことができるようには共有スペースに防犯カメラを設置した。そこからの情報を活用し、事故防止策について共通理解を図り、改善策について環境の調整をおこなった。

## (3) 日中活動支援（生活介護事業）

科ごとの特長を活かした活動展開を図った。

日中1科：あすもねと共同でみかん園管理活動が加わり、活動の幅を広げ、大きな収益に繋がった。

日中2科：陶芸以外にも利用者の絵を活用したバッグや衣類を工夫し、ライнстンプの販売も行った

日中3科：60周年の記念キーホルダーでレザークラフトの売り上げを伸ばした。

日中4科：新たに取り入れたアクセサリーが好評であった。

活動参観や余暇プログラム、ワークショップ等に関しても計画的に実施し、地域交流や活動の充実に繋がった。送迎車両の軽微な接触が数件あった為、安全運行の徹底を図る必要がある。

## (4) 余暇活動支援

児童部では、少人数で利用者の要望や希望に沿った活動を提供することができた。具体的な取り組みとしては、単独での外出や放課後活動への参加や球技大会、コンクール等への参加も積極的に行った。

成人部では、地域連携行事である秋まつりを代表する地域のイベントへの参加を行った。また、個別外出では、利用者からの希望を受けて食べることを楽しむ機会を

充実させた。日常場面では、女性利用者に対してネイルや化粧を行うことで余暇を充実させることができた。

生活介護では、昨年に引き続き、全利用者がランチ・ワンディ外出を行った。加えて、各科が月に一度の余暇計画をたて、季節に応じた余暇やドライブ等を実施した。今後も、プログラムに偏りが出ないよう工夫しながら、活動の更なる充実に繋げていく。

#### (5) 健康・衛生に関する支援

看護師、医療機関と連携し、利用者への病気や怪我等への対応を適切に行い、利用者の健康管理に努めた。健康診断の結果については、嘱託医や主治医に相談・指示を仰ぎ、必要に応じて他の医療機関へ引継ぎ検査・検診を受けて対応した。また利用者・家族の希望がある胃カメラ・大腸検査・腹部超音波検査については、医療機関の協力を得ながら、検査を実施することができた。

感染症に関しては感染対応マニュアルを活用、職員との連携を図りながら、感染拡大予防が確実に行えた。誤与薬防止についてマニュアルの整理を行なった。今後もマニュアルの周知徹底、リスクマネジメント委員会との連携を図りながら、誤与薬予防に努めていく必要がある。

#### (6) 地域生活支援

※サービス実績（別紙）参照。

#### (7) 人権擁護活動

全職員の「人権侵害ゼロへの誓い」への署名を施設に掲示し、人権侵害防止チェックリストで自身の日頃の支援に対する振り返りの機会をつくった。また、児童部ならびに成人部に虐待防止マネージャーを配置し、人権侵害防止に関する改善シートをつかって日々の実践につなげた。象徴的な取り組みとして人権擁護の標語を掲げ月単位で取り組んだチームがあった。年度末には人権擁護に関する園内研修を行い、各虐待防止マネージャーから改善シートを基にした取り組み状況について具体的な事例を共有した。

#### (8) 自立生活支援

対象者の状態像に応じた移行支援を行った。内訳はグループホーム（2名）、家

庭復帰（4名）、他施設への措置変更（1名）である。その中でも自宅復帰（離島）の移行者については、本人・家族の意思のもと関係機関と連携を図り移行につなげた。

また、昨年度より鹿児島県主催で「障害児施設入所児童に係わる障害者施設等への移行に関する意見交換会」が開始され、措置児童・県など異なる行政との連携方法について協議をおこなっている。自立生活支援については、高等部入学時から特に学園での個別相談、学校での教育相談の機会を活用し、本人と家族の希望を聞きながら移行先について計画的に進めたい。

## 【地域生活支援センターあさひが丘】

### （1）児童発達支援センター歩路

#### ○児童発達支援（歩路）

今年度、児童発達支援事業利用率107%（前年比102%）保育所等訪問支援38件（前年比158%）の実績であった。定員は25名での受け入れを継続した。

利用希望が多い中、ゆうひが丘と連携を図りながら、吉野に在住している方、吉野地区の幼稚園、保育園を利用している子どもについてはゆうひが丘の利用を勧めることで可能な範囲で利用希望に対応することができた。

また、関係機関との連携についても、予定していた幼保連絡会や公開療育などは実施できたが、ペアレント・プログラムについては参加者が少なかったため開催曜日の変更などの検討が必要である。

#### ○放課後等デイサービス（我路・シュバル）

今年度は地域の小学校低学年児の利用が増え、キャンセル待ちの利用数が多くなった。前期は、キャンセルと実利用の予測が難しく、安定した利用率を得ることができなかつた。後期にはキャンセルを想定した利用者の受入れ数を調整し、平等に利用者受入れを計画することで、年間利用率（我路103%・シュバル127%）と、概ね安定した利用数を確保できた。

#### ○保育所等訪問支援（歩路・我路・シュバル）

児童発達支援センター歩路では、保護者の要望に応じて歩路41件、我路15件、シュバル1件を実施することができている。次年度は学校・家庭との連携を更に密にして情報共有を図るために、保護者への働きかけを行う必要がある。

### （2）ワークショップあすもね（就労継続支援B型・生活介護）

利用者のストレングスや作業意欲へ目を向け、内職作業を中心に施設外就労の機会をつくることに努めた。その結果、毎月安定した工賃（平成30年度月平均工賃：17,366円）を支払う事ができ、仕事に対しての充実感を高めることができた。

また、地域でのリサイクル回収作業やみかん販売の販路先拡大を行い、地域住民とのかかわりも増え、あさひが丘を知ってもらう機会を設ける事もできた。

生活介護においては、行動面・情緒面の支援と共に、作業を通して日中活動の充実を図ることで、利用者ニーズに合わせた個別の支援を実施する事ができた。

### （3）ヘルパーステーションとわ

＜平成30年度利用件数＞

○居宅介護：721件　○行動援護：413件　○移動支援：444件

利用者・保護者との信頼関係を構築し利用者のニーズに可能な限りヘルパー調整を行った。今年度は居宅介護の中で複雑な家庭状況があり家族支援を他部署（児童発達支援）と連携して行った。

### （4）グループホームあさひが丘（介護サービス包括型共同生活援助事業）

花梨（女性5名）・くるみ（女性4名）・ももか（女性6名）

つばさ丸（男性5名）・四郎丸（男性8名）・とんぼ丸（男性8名）計36名

地域に根差すグループホームを目指し、地域行事や各ホームの所属する班会に利用者が職員と一緒に参加した。夏まつりや運動会の準備・片付けにも利用者が参加し、利用者の名前と顔を覚えてもらえるように努めた。丁寧なあいさつや行いが好印象としてわずかではあるが名前で呼んでもらえる利用者も出てきた。

### （5）あさひが丘相談支援センター

＜平成30年度実績＞

児童：計772件（サービス利用支援401件、継続サービス利用支援371件）

特定：計314件（サービス利用支援135件、継続サービス利用支援179件）

新規利用者の相談が多数あったが、チームで連携を図り、可能な範囲で対応することができた。また、継続して保護者、利用者の希望を聞きとり、サービス等利用計画の作成を行った。今後も利用者に寄り添って支援を行っていく。生活支援困窮者支援についても週2日、相談支援専門員が出向し、支援を行った。平成31年3月8日、落穂会は、やどかりサポート鹿児島と地域ふくし保証について協定を結んだ。

おもいやりネットワークについては、5件の問い合わせがあったうち、1件の相談者に対して食材、日用品の支援を行った。

## 【ガーデンキッズセルク・トリア】

### (1) ガーデンキッズセルク

今年度、児童発達支援事業利用率101%（対前年比108%）、保育所等訪問支援45件（対前年比86%）の実績であった。新版K式発達検査を35名の利用者に実施し、アセスメントに基づいた個別支援計画書を作成し、発達段階に応じた療育活動の提供に努めた。

マルヤガーデンズ主催のアートイベントやみつばちプロジェクト、ハロウィンイベント等にも積極的な参加を行い、商業施設内に設置されている施設として、地域との連携も行った。

また、児童発達支援ガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、保護者との引き継ぎ方法等の改善に努めた。

### (2) ガーデンキッズトリア

今年度、児童発達支援事業利用率119%（対前年比101%）、放課後等デイサービス利用率67%（対前年比111%）、保育所等訪問支援33件（対前年比94%）の実績であった。放課後等デイサービスの取り組みについて、地域の学校関係者への理解を深めることを目的とし、学校連絡会を開催した。児童発達支援事業所を対象とした公開療育の実施、他事業所の公開療育への参加も行い、地域の関係機関との連携に努めた。

また、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、活動内容の計画的な案内方法等について改善を行った。

## 【あさひが丘乗馬俱楽部 シュバル】

利用者の安全を確保しながら個別レッスンを中心に引き馬やふれあいを通して乗馬活動を行った。

### ○引き馬（延べ人数）

放課後等デイサービスシュバル（1392名）、放課後等デイサービス我路（46名）、児童発達支援歩路（30名）、ガーデンキッズ（2名）、ゆうひが丘（58名）  
生活介護（361名）、児童入所（38名）。

### ○個別レッスン（延べ人数）

放課後等デイサービスシュバル（382名）、放課後等デイサービス我路（32名）、  
ゆうひが丘（19名）、ガーデンキッズ（29名）、生活介護（63名）、  
児童入所（38名）。

また、一般乗馬（契約7名）の乗馬活動も休日を中心に利用を受けている。次年度

は、ホースセラピーの成果を披露するイベント（馬フェスタ）を10月に開催し、一般乗馬を含めて乗馬俱楽部の利用拡充に努める。

#### 4. その他の事業報告

##### (1) 職員研修・資格取得等

###### ① 園内研修

月	テーマ	担当
4月	個別支援計画について	支援課長：八反田憲治
5月	安全運転について	統括主任：前田卓 (安全運転管理者)
6月	栄養管理について	管理栄養士：宍野和美
7月	実践報告 ①「H.Kさんがコップで飲めるようになるまで」 ②「Aさんの「強み」を生かした支援への取組」	発表者 ①1寮：黒木智 ②セルク：白濱綾菜
8月	—	—
9月	実践報告 ①「障害特性に合わせた環境調整」 ②「シユバル：個別レッスンの実践と成果」	発表者 ①日中活動：吉永憲世 ②シユバル：迫田結美
10月	健康管理について	①看護師：三浦由紀子 ②看護師：佐野奈保子
11月	生活困窮者ならびに住宅確保要配慮者への支援について	相談支援：羽月浩二
12月	あさひが丘学園60周年記念式典について	人事主任：水流大樹
1月	防災について	統括主任：木場明典
2月	実践報告 ①小規模ユニットケアに移行して ②ストレングスに着目した支援	発表者 ①児童部：横山祐介 ②あすもね：北薙誠
3月	人権擁護について	統括主任：今別府望

###### ② テーマ別研修

6月	「人間関係の取り方やアタッチメントについて」「性教育について」	思春期保健相談士 徳永 桂子 氏
9月	成人期における個別支援計画書作成に関する講義及び演習	(社福)藤沢育成会 湘南ゆうき村施設長 相談支援プラザ所長 河原 雄一 氏
H31 2月	「小児SSTと家族支援 (ペアレントトレーニングを中心に)」	Office 夢風舎 フリーランスナース 土屋 徹 氏

### ③ 外部研修

新任職員研修や中堅職員研修などの階層別研修、強度行動障害支援者養成研修に代表される専門スキル向上研修、サービス管理責任者全体研修などの資格取得に向けた研修など、合計 68 回の研修・講演に延べ 215 名（重複者含む）の職員を派遣した。研修での学びは月例職員会議や研修報告書などで共有を図った。

### ⑤ 通信教育・資格取得

全職員の資格取得状況は以下のとおりである。

【有資格者数】(平成 31 年 4 月 1 日現在)

資格名	人数	資格名	人 数	資格名	人 数
社会福祉士	10	ホームヘルパー	29	知的障害援助専門員	19
介護福祉士	27	介護支援専門員	3	知的障害福祉士	1
保育士	67	看護師	3	理学療法士	1
社会福祉主事	34	栄養士・管理栄養士	3	強度行動障害従事者養成研修	44
公認心理師	1	精神保健福祉士	3	言語聴覚士	2
相談支援専門員	13	サービス管理責任者	29	乗馬インストラクター	2

### (2) 実習・研修の受け入れ

下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 12 名（大学 1 校・短大 2 校・専門学校 2 校）
- ② 社会福祉士実習 4 名（大学 1 校・専門学校 2 校）
- ③ 介護福祉士等実習 11 名（専門学校 1 校・高校 1 校・実務者研修機関 1 事業所）
- ④ 福祉体験実習 50 名（高校 1 校・中学校 1 校）
- ⑤ 臨床実習 48 名（専門学校 1 校）
- ⑥ 介護等体験実習 6 名（大学 1 校）
- ⑦ 特別支援学校現場実習 23 名（3 校）
- ⑧ 外部職員研修 50 名（6 施設・3 機関）

### (3) 各サービスの利用実績（別紙参照）

【各サービス実績の単位】

- ①児童部・成人部（各月初日の入所者数）
- ②短期入所・グループホーム（日数）
- ③生活介護・児童発達支援・放ディ・保育所等訪問支援・就労 B・相談支援（件数）

#### ④居宅介護・行動援護・移動支援・日中一時支援(時間数)

##### 【各サービスの利用率・対前年比等】

- ①児童部（契約入所） 利用率 14.5% 新規入所 1名 退所 1名  
児童部（措置入所） 利用率 77.5% 新規入所 6名 退所 8名  
児童部（合計） 利用率 92.0% 新規入所 7名 退所 9名
- ②成部（入所） 利用率 92.6% 新規入所 1名 退所 1名
- ③生活介護 利用率 108.0% 対前年比 101%
- ④短期入所 利用率 57.8% 対前年比 128%
- ⑤児童発達支援（歩路） 利用率 107% 対前年比 102%
- ⑥児童発達支援（希路） 利用率 89% 対前年比 なし
- ⑦児童発達支援（セルク） 利用率 101% 対前年比 108%
- ⑧児童発達支援（トリア） 利用率 119% 対前年比 101%
- ⑨放課後等デイサービス（我路） 利用率 103% 対前年比 108%
- ⑩放課後等デイサービス（ニポポン） 利用率 65% 対前年比 なし
- ⑪放課後等デイサービス（シュバル） 利用率 127% 対前年比 93%
- ⑫放課後等デイサービス（ピッコロ） 利用率 67% 対前年比 111%
- ⑬保育所等訪問支援（歩路） 対前年比 158%
- ⑭保育所等訪問支援（セルク） 対前年比 86%
- ⑮保育所等訪問支援（トリア） 対前年比 94%
- ⑯保育所等訪問支援（シュバル） 対前年比 25%
- ⑰保育所等訪問支援（ゆうひが丘） 対前年比 なし
- ⑱居宅介護 対前年比 107%
- ⑲行動援護 対前年比 102%
- ⑳移動支援 対前年比 117%
- ㉑日中一時支援 対前年比 114%
- ㉒就労継続B 利用率 105% 対前年比 121%  
生活介護 利用率 121% 対前年比 113%
- ㉓グループホーム 利用率 99% 対前年比 100%

#### （4）各サービスの利用契約数（別紙参照）

各サービスの利用契約者数(2019年4月1日現在)

サービス名	児童	成人	合計
入所（契約）	5	49	54
入所（措置）	20	/	20
入所小計	25	49	74
生活介護	/	97	97
生活介護（あすもね）	/	9	9
短期入所	148	124	272
居宅介護	0	31	31
行動援護	6	12	18
日中一時支援	55	94	149
移動支援	1	36	37
就労継続支援B型	/	28	28
児童発達支援（歩路）	51	/	51
児童発達支援（セルク）	53	/	53
児童発達支援（トリア）	19	/	19
児童発達支援（希路）	23	/	23
放課後等デイサービス（我路）	125	/	125
放課後等デイサービス（シュバル）	69	/	69
放課後等デイサービス（ピッコロ）	61	/	61
放課後等デイサービス（ニポポ）	29	/	29
保育所等訪問支援（歩路）	42	/	42
保育所等訪問支援（我路）	56	/	56
保育所等訪問支援（シュバル）	13	/	13
保育所等訪問支援（セルク）	37	/	37
保育所等訪問支援（トリア）	13	/	13
保育所等訪問支援（ピッコロ）	52	/	52
保育所等訪問支援（希路）	13	/	13
保育所等訪問支援（ニポポ）	17	/	17
グループホーム	/	36	36
相談支援	332	166	498
在宅小計	1215	633	1848
合計	1240	682	1922

各サービスの利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童部 (契約)	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	52
児童部 (措置)	22	23	20	23	21	21	21	21	21	21	22	22	257
成人部 (入所)	49	50	50	50	49	49	49	49	49	49	49	49	591
生活介護	1,764	1,867	1,815	1,885	1,721	1,720	1,921	1,822	1,800	1,717	1,665	1,889	21,586
生活介護 (あすもね)	153	161	153	161	147	148	160	157	147	143	134	162	1,826
短期入所(児童)	53	67	81	98	154	104	82	109	97	79	60	117	1,101
短期入所(成人)	224	223	196	193	215	212	247	224	255	226	229	255	2,699
児童発達支援 (歩路)	503	616	644	556	507	487	589	544	467	444	512	532	6,401
児童発達支援 (セルク)	404	469	528	467	415	496	547	517	485	454	498	534	5,814
児童発達支援 (トリア)	191	200	256	260	209	209	268	255	240	238	232	257	2,815
児童発達支援 (希路)				113	174	125	173	140	180	204	206	232	1,547
放課後等デイ (我路)	591	589	628	552	453	482	565	565	540	512	533	608	6,618
放課後等デイ (ピッコロ)	152	165	194	172	151	159	168	145	146	143	153	161	1,909
放課後等デイ (シュバル)	369	382	390	378	327	325	351	338	325	312	312	338	4,147
放課後等デイ (ニボボ)				109	119	113	151	144	120	129	132	139	1,156
居宅介護	59	55	68	62	69	57	59	52	59	66	53	62	721
行動援護	35	34	37	35	32	31	36	36	36	31	32	38	413
移動支援	42	44	60	42	32	33	36	34	32	29	28	32	444
日中一時支援	223	215	231	223	209	205	251	234	209	200	221	246	2,667
就労B	506	529	508	519	496	492	536	539	514	473	455	524	6,091
グループホーム	1,076	1,093	1,079	1,109	1,089	1,068	1,115	1,080	1,094	1,078	1,007	1,115	13,003
計画相談(児童)	65	82	59	62	63	80	44	60	69	55	58	75	772
計画相談(成人)	30	22	28	25	22	41	19	29	15	28	33	22	314
保育所等訪問 (歩路・我路)	0	9	7	5	0	11	6	7	1	4	3	3	56
保育所等訪問 (シュバル)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
保育所等訪問 (セルク)	0	12	4	2	0	0	1	14	4	0	7	1	45
保育所等訪問 (トリア)	2	3	3	4	0	0	0	6	8	2	2	3	33
保育所等訪問 (ゆうひが丘)				0	0	0	0	6	5	0	0	0	11

# 平成30年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

## ■ 平成30年度の重点目標に対する事業経過報告

### 1. 利用者のニーズに合わせた支援の提供……評価 B

29年3月に第二作業所(通称:竹工)の生活介護とB型再編を行い2年が経過したが、竹工作業班の作業と支援の体制も落ち着き、また、生活介護班も音楽療法などのカリキュラムが更に充実したことで、竹工全体として利用者・家族から一定の評価を得ることができた。それ以外の部門においても利用者の個別ニーズを作業・生活両面からの視点での的確に把握し、ニーズに合った支援を念頭に利用者支援の向上を図った。

人権擁護に関する取り組みとしては、委員会主催によるグループディスカッション・虐待防止チェックリストの活用、施設内研修(H31.1月実施 児玉理事監修)等を行い、支援の向上を図った。来年度以降も充実した支援体制を確立させるべく研鑽を重ねたい。

### 2. 人事管理制度の円滑な遂行……評価 B

人事考課制度を職員の資質向上に繋げることを主眼に置き、「新人事制度の円滑な遂行」・「考課者の基準の統一」の2つを目標に掲げ、人事考課を実施した。今後更に考課者の評価基準の統一と徹底を図っていきたい。

### 3. 職場環境の充実……評価 A

今年度の職員一人あたりの年次有給休暇取得日数は 10.78日となった。ただ、業務内容により、一部職種に有給取得数が少ない状況も見られた。業務が異なる点で全く同条件には出来ない実情もあるが、今後 職場内で一層の協力体制を推進していく予定である。

### 4. 支援委員会・業務改善委員会の円滑な運営を実施……評価 B

#### ① 支援委員会

- 【生活委員会】利用者のより良い生活環境の提供を目標とし、今年度は特に居室環境の充実を図った。強化週間を設け、支援員・利用者が一緒に整理整頓を行うことで、双方ともに意識の向上に繋がっていた。また、各加算の仕組みや個別支援計画の研修を開催し、職員のスキル向上に努めた。

- 【地域委員会】各行事の円滑な運営を目標に、早目の計画と準備に取り組んだ。緑ヶ丘朝市や農福マルシェ等の各種バザーへ参加(計 23 回)し、広報活動と売上の向上に努めた。また、利用者の余暇・外出計画(買い物外出 2 回・利用者同士による自由外出

(月 1 回程度)・宿泊キャンプ・新年会・忘年会・日帰り旅行など)を企画・実施し、余暇の充実を図った。

- [作業委員会] 新人育成シートの活用についてはまだまだ不十分な点はあったが一定の成果を上げていた。今年度は簡易版ヒヤリハットメモを作成し、職員がヒヤリハットを挙げやすく改善したことで、各作業班から多くの事案数が上がり、内容を精査し職員間で共有するよう努めた。
- [職場改善委員会] 朝礼や職員会議をはじめ、研修やグループディスカッションを通して職員に啓発活動(挨拶・服装・利用者の呼称など)を実施する。また、職員行動チェックリストやチューター制度などを活用し、人材育成とコミュニケーションの向上を図り、働きやすい職場作りに努めた。
- [人権擁護委員会] 研修会 2 回、グループディスカッション 1 回、虐待防止チェックリストの活用 1 回を開催し、虐待行為の防止 並びに意識向上の機会を作った。また、ヒアリング調査についても昨年に引き続き実施し フィードバックを行うことにより、職員が支援の方向性を共有する良い機会となった。
- [地域貢献委員会] 昨年度は「町内会・近隣住民との関係強化」を全職員の目標として各部署の日常業務で実践してもらった。また、地域行事や清掃作業へ利用者と職員が積極的に参加・協力し、交流を深めた。12月には餅つき大会を開催、隣接する7家族・1企業に参加を呼びかけ、3家族、6名の地域の方々に参加していただいた。最後に川上小との福祉体験学習は4年生98名との交流を実施、大変評価が高かった。
- [活性化委員会] 毎月、職場内の改善点などについて話し合いを持つ。また、各部署で困っていることや悩みについても議題として挙げる。今年度はコピー機や冷暖房の使用方法(目的 コスト意識向上)について改善を実施、また、会議室の整理整頓など 身近な事案について取り組んだ。ただ、全職員への周知徹底が不十分であったこともあり、委員会メンバー以外の職員の認識が低かった。今後さらなる取り組みが必要である。

## ② 業務改善部会

- [センターふれあいバザー実行委員会] 11月 23 日に実施(54回目の開催) 天候にも恵まれ1, 500名近くのお客様に来園していただいた。実行委員会を早期に立ち上げ万全の体制で臨んだつもりだったが、開始前後の来場者が多く、道路渋滞の対応や駐車場を急遽増やすなどの対策に追われた。
- [グループホーム旅行委員会] 今年度も利用者に対して旅行の希望調査を実施、候補地を決定。今年は3グループに分かれ 県内外へ一泊二日の旅行を実施した。毎年好評であり、また来年はどこに行けるのか 期待を募らせていました。

## 5. 各作業部門の状況……評価 A

### 作業の効率化と職員の作業スキル向上

作業の効率化と作業スキル向上(5年の計画 3年目)を作業部門全体の重点課題として掲げ、作業班ごとに育成シートによるスキル向上に取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画に沿った計画の達成を目標に掲げ、計画的な実践に努めた。尚、生活介護事業を30年6月より旭センター本体敷地内に移動して事業を継続、移動した当初は職員・利用者に戸惑いも見られたが、特に大きな混乱もなく運営は順調であった。

**蔬菜班**…売り上げ目標は達成。野菜管理については、近年 温暖化や災害などに影響を受ける場面が多くなってきており、気候変動への対応が難しい場面が多かった。また、作業場所を変更し、以前よりも活動場所をコンパクトにしたことにより、協力体制や支援面、OJT 等の機会が増え、良い効果が出た。地域との連携も、挨拶から始まり 会話を増やす活動を来年度も続けていきたい。

売上目標 4, 200, 000 実績 4, 598, 240 109.5%

**菓子班**…売上計画を上回り達成。各種行事・イベントについて計画的に行うことができた。課題であったで全体・利用者のスキルアップは完全に達成するに至らなかったので、次年度も計画を立てて取り組んでいく。また、SNS 等の活用や広報活動はある程度活用ができるが、まだ改善の余地があると考えているので、今後も宣伝をしっかりと行っていく。

売上目標 16, 250, 000 実績 17, 238, 730 106.1%

**カフェNODOKA**…売上を大幅に上回り達成する。1日お客様が来店する保証はできないので引き続き売り上げを下げないように実施できなかつたことの計画をしっかり立案し、接客スキル・広報・宣伝に力を入れていく。

売上目標 6, 000, 000 実績 7, 146, 681 119.1%

**メンテナンス班**…売上計画は未達成に終わる。(要因 新規の定期清掃が1件増えたが、定期清掃依頼がなかつた物件があった。)今季の重点目標に掲げていた育成シートの活用は面談や現場での OJT を通じて行うことができた。研修カリキュラムの見直し等 不十分な点もあるが、利用者・職員が研修を通して、意識の向上や技術のスキルアップにつながっていた。来年度も継続して OJT と研修を実施していく。

売上目標 22, 000, 000 実績 21, 773, 868 99.0%

**竹工班(軽作業)**…売上については未達に終わる。6 月より生活介護事業をセンター本体敷地内へ移動したが、利便性が向上したことで利用者支援の充実につながつた。また、日頃の利用者情報や作業班・介護班合同の全体会議を定期開催することで情報共有を図り職員間の連携強化に努めた。職員育成については新人職員を中心にスキルアップや業務のフォローを進めていきたい。

売上目標 4,100,000 実績 3, 740, 683 91.2%

**陶芸班**…お客様のニーズに合わせ、器の種類や釉薬の色を変えながら作品を製作してきた。また、各種催し物や窯元見学をすることで創作意欲が高まり、自分なりの工夫も出てきて、良い製品が数多くできた。今後も各種の見学を取り入れながら製作活動を行っていく。売り上げに関しては未達に終わった。

売上目標 1,150,000 実績 965,621 84.0%

**施設外就労班**…30年12月より ナンニチ流通(株)での施設外就労が始まる。開始当初は新しい環境での作業に対応するための基盤づくりや、利用者に対するフォローを厚くする点などに重点を置いた体制づくりを行った。今後の動きとしては、顧客との連携体制を より充実させていくとともに、作業面でのスキル向上に力を入れて行く。

実績 (30年12月より開始) 1,300,000 -.-%

#### 平成30年度主要部門売上一覧

作業班	売上目標額	達成額	達成率
蔬 菜	4,200,000	4,600,000	109.5%
楓（菓子班）	16,250,000	17,250,000	106.1%
NODOKA	6,000,000	7,150,000	119.1%
メンテナンス	22,000,000	21,800,000	99.0%
竹 工	4,100,000	3,750,000	91.2%
陶 芸	1,150,000	970,000	84.0%
施設外就労	1,300,000	1,800,000	(100%)
味 噌	1,350,000	1,400,000	103.7%
その他	1,200,000	1,200,000	(100%)
合 計	57,550,000	59,420,000	103.3%

#### 6. 家族との連携強化(家族代表者委員会の活用)……評価 A

家族代表者委員会では平成30年度 3回に渡って委員会を開催した。議題としては、30年度の施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会の役員のメンバー交代についての検討、30年度以降の家族ボランティアメンバー選定、障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の新年会を行い、親睦を図った。

#### 7. 就労移行に関する情報収集・強化……評価 C

今年度は1名の利用者の就労を目標に掲げていたが、対象利用者が30年9月に就職、現在メンテナンス業務に携わっている。現在5名いる一般就労者の定期的な訪問やフォロー活動は 上半期は出来ていたが、下半期は十分な体制を取ることが出来なかった。来年度は定着支援を確実に行っていきたい。

## **8. 職員研修の充実……評価 B**

施設内において年間22回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チーフ研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上及び、一般常識的な知識の向上に重点を置いた研修を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計69回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

## **9. グループホームの充実……評価 B**

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(27名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。尚、8つ目のグループホーム(坂元町)については、31年度(令和2年 3月)を目途に完成予定である。

## **10. 各種マニュアルの作成……評価 B**

各種マニュアル(事故防止、健康管理、各種作業、環境整備等)を修正し、マニュアル集を整備した。引き続き整備を行う予定である。

## **11. 福祉教育……評価 B**

30年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| ① 保育士実習      | 4名 (2校)            |
| ② 特別支援学校現場実習 | 14名 (4校)           |
| ③ 福祉学習受け入れ   | 98名 (1校) ※川上小学校4年生 |

## 年間行事の実施状況(平成30年度分)

### 第二旭福祉センター

### 旭福祉施設センター

区分	実施状況	参加人数	備考
4月	1日 さくら祭りマーケット 利用者胸部レントゲン	職員・利用者 2名	吉野公園 旭センター 県社会福祉センター
	6日 県社会就労センター施設長会 落穂会・ゆうかりふれあいバザー	職・利・保 3名	城山ホテル鹿児島 市民文化ホール しょうぶ学園
	15日 新ビジネスコミュニケーション研修		
	16日 障害福祉サービス等報酬改定に係る説明会	2名	串木野養護学校 社会福祉法人会計研修 安全運転管理者講習会
	18日 県知障協定例総会 福祉研究会	3名	手工芸専門部門研修 県知事杯フトサル大会
	19日 知的障害親善球技大会 吉野兵六夢まつり	1名	塙田神社夏祭り 施設見学
	26日		塙田神社 県社会福祉センター 旭センター
	28日		
	30日		
5月	2日～6日 市地区施設職員親善球技大会実行委員会 9日 保育養成校共催施設見習連絡会	利用者 1名	ときわの家 マリンパレス鹿児島
	11日 優理法人会経営講演会	利用者 3名	城山観光ホテル 市民福祉プラザ
	12日 県ソーシャルワーカー協会理事会 バーベキュー大会	利用者 1名	旭センター 城山観光ホテル
	14日 社法人経営者セミナー 求人セミナー 採用セミナー	利用者 2名	リコージャン鹿児島支社 県民交流センター 中央公民館
	16日		
	17日		
	22日 市施設指導監査説明会		
	23日 落穂会監事監査		
	24日 市知的障害施設連絡協議会理事会		
	28日 県青年経営者部会総会・研修会 新ビジネスコミュニケーション研修	2名 1名 3名	パレスイン鹿児島 ホテルレクストン 自治会館
	30日 落穂会理事会		
6月	4日～16日 鹿児島国際大学保育実習 6日 イーエヌ水耕栽培見学 6日～8日 ハンドメイド＆パンマルシェ メンタルヘルス講演会	1名 3名 2名 2名 3名	鹿児島養護3名 旭センター イーエヌ 山形屋 はーと・ぱーく ハートピアかごしま
	8日 家族会連合会総会 9日～10日 入所利用者一日外出	保護者1名 利用者 1名	
	11日～22日 施設実習		
	13日 正和会役員会 家族会代表者委員会	1名 2名	なごみ苑 旭センター 県民交流センター
	14日 介護職スキルアップ研修	職員・保護者 2名	旭センター サンライトボウル他
	15日 職員健康診断	職員 職員	旭センター 県民交流センター
	17日 施設職員親善球技大会 18日～29日 施設実習 県授産・共同受注センター総会・理事会	2名 1名 2名	クラウンプラザホテル熊本 東京国際オーラム 鹿児島養護学校 市民福祉プラザ
	18日 介護職スキルアップ研修	2名	
	26日 知的障がい者高齢期支援について	3名	
	29日 全国知的障害関係施設長等会議 鹿児島養護学校福祉施設説明会 障害福祉集団指導	1名 2名 3名	

区分	実施状況	参加人数	備考
7月	6日 武岡台養護学校福祉施設説明会 串木野養護学校 城山ホテル鹿児島 市民文化ホール しょうぶ学園 ふれあいスポーツランド 塙田神社 県社会福祉センター 旭センター	1名 1名 2名 1名 2名 利用者 職員・利用者 職員の希望者20名 委の希望者20名	武岡台養護学校 串木野養護学校 城山ホテル鹿児島 市民文化ホール しょうぶ学園 ふれあいスポーツランド 塙田神社 県社会福祉センター 旭センター
	9日 社会福祉法人会計研修 安全運転管理者講習会	1名	
	10日 手工芸専門部門研修	1名	
	12日 県知事杯フトサル大会	1名	
	14日 かごしま障がい者共同受注センター理事会 施設見学	1名 4名	県社会福祉センター 都市農業センター 旭センター
	19日 六次産業研修会 施設見学	1名 青鳥会5名 ハローワーク9名	県社会福祉センター 都市農業センター 旭センター
	24日		
	25日 施設見学 就労支援ネットワーク会議	1名 1名	県社会福祉センター 青少年会館 旭センター
	26日 ソーシャルワーカー会議 ソーシャルワーカードーム	7名	はーと・ぱーく 鹿児島国際大学 山形屋
	28日 サンタローザ友好会学生交換プログラム 入所利用者キャンプ	1名	県社会福祉センター
	30日 青年経営者部会研修会 相談・苦情解決の第三者委員会	1名 2名	あさひが丘学園 青少年会館 旭センター
8月	1日 おもいやりネットワーク研修 施設見学	1名 1名	大島擁護4名 大島擁護4名
	6日 福祉保健医療職場就職ガイダンス 人権擁護研修	2名 1名	サンロイヤルホテル サンロイヤルホテル 市民文化ホール
	8日 感染症講演会 通所説明会・家族会総会・家族代表者委員会 職員・保護者	2名 2名 1名	旭センター
	9日		
	10日 通所説明会・家族会総会・家族代表者委員会 職員・保護者 利用者	1名 1名	利用者 職員・利用者 串木野養護職員10名
	11日 夏休暇帰省 ビアガーデン	1名	県社会福祉センター
	11日～15日		
	17日、24日 サマーイト花火大会 施設見学	1名 23日 26日	北埠頭ミニマル 旭センター
	18日 緑ヶ丘納涼夏祭り 県経営者協議会研修会・広報部会	1名	みどりが丘商店街 県社会福祉センター
	27日		
9月	1日 ソーシャルワーカーのための面接技法 ストレスマネジメント研修	1名	市民福祉プラザ 県社会福祉センター 旭センター
	7日 介護体験実習 社会福祉法人会計セミナー	1名 2名	自治会館 武岡台養護学校 市市民福利プラザ
	7日		
	10日 武岡台養護学校バザー 給食施設従事者研修会	3名 3名	ベーカリー楓感謝フェア
	10日		
	11日 ベーカリー楓感謝フェア	1名	県知的障害者ふれあいスポーツ大会
	15日 農福連携マルシェ運営委員会説明会	1名	利用者
	23日		
	27日 農福連携マルシェ合同説明会	2名	県社会福祉センター
	27日		

区分	実施状況	参加人数	備考	参加人数		備考
				1月	実施状況	
10月	4日 強度行動障害支援者養成研修 7日 海釣り 8日 GH熊本旅行	2名 職員・利用者 GH利用者	サンロイヤルホテル 海釣り公園 人吉方面	4日 障害者虐待防止・権利擁護研修会 さんさん会研修会・新年会	新年度式	地域生活支援センター ウェルビーイングしま
	9日～19日 施設実習	4名 鹿児島養護 県民交流センター 新電が関ビル 新電業界 アミューズメント	旭センターホテル 鹿児島市 アミューズメント	10日 北部清掃工場	青鳥会事務局他 北部清掃工場	
	10日 要配慮者利用施設の運営確保計画の作成等に関する説明会 13日～14日 全国社会就労センター協議会議題別専門研修会	1名 職員・利用者 鹿児島養護	11日 長崎ナイスハートバザール	2名 利用者2名・保護者 職員・利用者	市民文化ホール 長崎アミューズメント	
	15日～16日 農福連携マルシェ秋の収穫祭 15日～19日 施設実習	2名 職員・利用者 鹿児島養護 串木野養護	15日 社会就労センター協議会設長等研修会 18日 防火総合訓練研修センター	4名 利用者4名 1名	4名 市民文化ホール マリンノレス	
	15日～26日 緑ヶ丘PTAバザー 21日 スペシャルオリンピックス20周年記念祝賀会 28日 GH長崎旅行	1名 職員・利用者 GH利用者	22日 社会就労センター協議会等研修会 24日 落穂会・ゆうかり幹部職員等新年会 25日 人権擁護研修会 25日 KAYOフェスタ	1名 職員・利用者 職員・利・保 1名	1名 消防管理等研修会 1名 利用者合同新年会 1名 サビ膏研修	
	28日 春山運動会 30日 施設見学	NPO法人てんどうむし6名 4名 GH法人会計セミナー	26日 社会福祉法人会計セミナー	1名	旭センターホテル 市町村自治会館	
11月	1日～2日 九州社会就労センター研究大会 2日 社会福祉法人会計研修 4日～5日 GH熊本旅行	4名 GH利用者 2名 牧之原養護	2月 ナイズハート接觸回り 就労アセスメント	1名	ピースフルガーデン 旭センターホテル	
	5日 地域生活定着支援センターセミナー 9日 あさひが丘秋祭り 11日 スクールソーシャルワーカー実践研修 11日 川上小学校PTAバザー	3名 職員 1名 職員・利用者 2名 職員・利・保	4日 九州地区知的障害者福祉協会合同研修会 5日 社会福祉法人会計研修 7日 民間社会福祉施設職員退職共済説明会 12日 施設実習	3名 2名 1名 武岡台養護1名 職員・利用者 2名	3名 福岡大会 城山ホテル鹿児島 サンロイヤルホテル 旭センターホテル	
	17日 強度行動障害支援者養成研修 20日 ふれあいバザー 23日 川上小学校4年生体験学習・見学① 27日 川上小学校4年生体験学習・見学② 29日 知的障害関係施設中堅職員研修会 30日 川上小学校4年生体験学習・見学③	3名 川上小学校4年生 3名 川上小学校4年生 3名 川上小学校4年生	13日 ナイスハートバザールin鹿児島 16日 強度行動障害支援者養成研修 18日 奉納祭(棒踊り) 24日	1名 職員・利用者 1名 職員・利・保	山形屋 ホテルウエルビューホテル	
12月	3日 利用者合同忘年会 3日 知的障害施設連絡協議会理事会・研修会 4日 実践省工ネセミナー 4日 青年経営者部会研修会 5日 県知障協施設長等研修会 6日 県授産・共同受注合同施設長・職員研修会 8日～9日 就労支援フォーラムNIPPON 9日 伊集院うめマラソン 11日 買物実習 11日 社会福祉法人経営者大会 11日 家族代表者委員会 12日 買物実習 14日 統合失調症と大人の発達障害について 18日 指導監査・実地指導 25日 三州原学園クリスマス会 26日 もちつき大会 28日～3日 冬休暇帰省	1名 職員・利用者 1名 青年経営者部会 3名 4名 3名 職員・利用者 2名 職員・保護者 職員・利用者 1名 2名 利用者	3月 1日 施設見学 2日 スペシャルオリンピックスサンキュー・パーティ 5日 実地指導監査 10日～12日 農福連携マルシエ 12日 知的障害者福祉協会全体会議・種別部会 14日 強度行動障害支援者養成研修 16日～17日 ベーカリー楓お菓子体験 23日～24日 吉野さくら祭りマーケット 旭センターホテル 鹿児島市精神保健福祉交流センター 三州原学園 旭センターホテル 吉野公園	2名 1名 2名 2名 2名 2名 2名 2名 2名 2名	2名 県民交流センター 旭センターホテル 吉野公園	

区分	実施状況	参加人数	備考	参加人数		備考
				1月	実施状況	
10月	4日 強度行動障害支援者養成研修 7日 海釣り 8日 GH熊本旅行	2名 職員・利用者 GH利用者	サンロイヤルホテル 海釣り公園 人吉方面	4日 障害者虐待防止・権利擁護研修会 さんさん会研修会・新年会	新年度式	地域生活支援センター ウェルビーイングしま
	9日～19日 施設実習	4名 鹿児島養護 県民交流センター 新電が関ビル 新電業界 アミューズメント	旭センターホテル 鹿児島市 アミューズメント	10日 北部清掃工場	青鳥会事務局他 北部清掃工場	
	10日 要配慮者利用施設の運営確保計画の作成等に関する説明会 13日～14日 全国社会就労センター協議会議題別専門研修会	1名 職員・利用者 鹿児島養護	11日 長崎ナイスハートバザール	2名 利用者2名・保護者 職員・利用者	市民文化ホール 長崎アミューズメント	
	15日～16日 農福連携マルシェ秋の収穫祭 15日～19日 施設実習	2名 職員・利用者 鹿児島養護 串木野養護	15日 社会就労センター協議会設長等研修会 18日 防火総合訓練研修センター	4名 利用者4名 1名	4名 市民文化ホール マリンノレス	
	15日～26日 緑ヶ丘PTAバザー 21日 スペシャルオリンピックス20周年記念祝賀会 28日 GH長崎旅行	1名 職員・利用者 GH利用者	22日 社会就労センター協議会等研修会 24日 落穂会・ゆうかり幹部職員等新年会 25日 人権擁護研修会 25日 KAYOフェスタ	1名 職員・利用者 職員・利・保 1名	1名 消防管理等研修会 1名 利用者合同新年会 1名 サビ膏研修	
	28日 春山運動会 30日 施設見学	NPO法人てんどうむし6名 4名 GH法人会計セミナー	26日 社会福祉法人会計セミナー	1名	旭センターホテル 市町村自治会館	
11月	1日～2日 九州社会就労センター研究大会 2日 社会福祉法人会計研修 4日～5日 GH熊本旅行	4名 GH利用者 2名 牧之原養護	2月 ナイズハート接觸回り 就労アセスメント	1名	ピースフルガーデン 旭センターホテル	
	5日 地域生活定着支援センターセミナー 9日 あさひが丘秋祭り 11日 スクールソーシャルワーカー実践研修 11日 川上小学校PTAバザー	3名 職員 1名 職員・利用者 2名 職員・利・保	4日 九州地区知的障害者福祉協会合同研修会 5日 社会福祉法人会計研修 7日 民間社会福祉施設職員退職共済説明会 12日 施設実習	3名 2名 1名 武岡台養護1名 職員・利用者 2名	3名 福岡大会 城山ホテル鹿児島 サンロイヤルホテル 旭センターホテル	
	17日 強度行動障害支援者養成研修 20日 ふれあいバザー 23日 川上小学校4年生体験学習・見学① 27日 川上小学校4年生体験学習・見学② 29日 知的障害関係施設中堅職員研修会 30日 川上小学校4年生体験学習・見学③	3名 川上小学校4年生 3名 川上小学校4年生 3名 川上小学校4年生	13日 ナイスハートバザールin鹿児島 16日 強度行動障害支援者養成研修 18日 奉納祭(棒踊り) 24日	1名 職員・利用者 1名 職員・利・保	山形屋 ホテルウエルビューホテル	
12月	3日 利用者合同忘年会 3日 知的障害施設連絡協議会理事会・研修会 4日 実践省工ネセミナー 4日 青年経営者部会研修会 5日 県知障協施設長等研修会 6日 県授産・共同受注合同施設長・職員研修会 8日～9日 就労支援フォーラムNIPPON 9日 伊集院うめマラソン 11日 買物実習 11日 社会福祉法人経営者大会 11日 家族代表者委員会 12日 買物実習 14日 統合失調症と大人の発達障害について 18日 指導監査・実地指導 25日 三州原学園クリスマス会 26日 もちつき大会 28日～3日 冬休暇帰省	1名 職員・利用者 1名 青年経営者部会 3名 4名 3名 職員・利用者 2名 職員・保護者 職員・利用者 1名 2名 利用者	3月 1日 施設見学 2日 スペシャルオリンピックスサンキュー・パーティ 5日 実地指導監査 10日～12日 農福連携マルシエ 12日 知的障害者福祉協会全体会議・種別部会 14日 強度行動障害支援者養成研修 16日～17日 ベーカリー楓お菓子体験 23日～24日 吉野さくら祭りマーケット 旭センターホテル 鹿児島市精神保健福祉交流センター 三州原学園 旭センターホテル 吉野公園	2名 1名 2名 2名 2名 2名 2名 2名 2名 2名 2名	2名 県民交流センター 旭センターホテル 吉野公園	